

2024年
8月1日
第485号



JR東海券

<http://jrtoukairou.sakura.ne.jp/>



〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-6-5

TEL 03-3201-0350 FAX 3201-0351

Eメール jrtoukairou@yahoo.co.jp

発行人 淵上 利和
編集人 高山 浩

統制委員会設置反対！津崎裁判を全地本から闘う！ 全地本定期大会で意思統一



新幹線地本第31回定期大会

新幹線地本は6月23日、第31回定期大会を開催しました。

伊藤委員長は、挨拶で「JR総連の統制委員会設置は、虚偽の報告に基づくもの。本部は『JR総連連絡』に回答している。JR総連は話し合いに応じると言つたにもかかわらず、一転して拒否した。制裁を出させない。小林さん、渡辺さんが津崎議長を提訴した。レッテルを貼られた仲間の気持ちを思うと、ふざけんなと言いたい。2人と連帯して闘う。JS労結成に学び、関連会社での組織拡大の闘いを進めよう。OB会小黒さん、南波さんに対し、本部見解が出された。組織混乱を

招くので傍聴を遠慮してもらつた。論議を継続していく。ウクライナ・パレスチナ戦争反対の声を上げていこう。分会から班へ組織体制を変更した。組織拡大に全力を」と訴えました。
来賓挨拶では、本部淵上委員長、静岡地本山本書記長、名古屋地本御辺書記長、新幹線関西地本渡邊副委員長、地本OB会尾崎会長、JS労西副委員長から受けました。
質疑では、全代議員より統制委員会設置に反対し、JR総連の対応を指摘しました。また「怪文書の拡散は許さない」「JR総連はどこに向かうのか、制裁に何のメリットがあるのか。未来は我々が決める。津崎裁判に勝利しよう」「出向先会社との団交で問題が改善された。賃金未払い・過払いは発生している」「JR総連は変わった。JR東海労を目の敵にしているがほかにやることがある。JR東労組のために闘つてほしい」「話し合ひをしない、真実を言えば問題になるのはおかしい。淵上委員長を支持す



静岡地本第35回定期大会

静岡地本は7月8日、第35回定期大会を開催しました。半場委員長は、挨拶で「リニアの2027年開業はできなくなつた。裁判で闘つてある仲間に連帯してきた。これからも連帯していく。『袴田巖さんの早期完全無罪を勝ち取る10・29集会』を成功させてきた。無罪判決

「それは良くない。自分も当初は疑問もついていたが関西のホームページを読んでわかった」「JR総連との議論、関西、JS労と議論して共に闘うべき」などの発言がされました。

命ではないのか」「二重加盟は納得できない」「多くのO Bの方も含め、職場討議資料や新聞などを熟読してほしい。二重加盟についても内容を記載してある」「315系ワンマン化、サービスシステム（駅無人化）については、会社に申し入れを行なう」などの発言がされました。また、「二重加盟は納得できない」との発言に対し、JS労柳楽委員長が、関西新幹線サービスにおける雇用実態や会社の動向などにつ

来賓挨拶では、本部選上委員長、JS労高木副委員長、新幹線関西地三田副委員長、地本〇会此田会長、「浜松市田巣さんを救う市民会」渥美代表、静岡県の条連増田共同代表から受けました。

質疑では、「JS労組成は、組織展望を具体的に切り拓いたものであります。社民党の方が『組織拡大は素晴らしい』と絶賛した。しかし、JR総連は嘘の上塗りで統制委員会を設置した。許さない。社会貢献、助け合をするのが労働組合の生

の判決が9月26日に出されると訴えました。



名古屋地本第34回定期大会

名古屋地本は6月30日、牧野コミュニティーセンターで第34回定期大会を開催しました。開会に先立ち、今年5月に亡くなられた松枝祐治さんのご冥福をお祈りし黙祷を捧げました。

荻野委員長は、挨拶で「組織拡大を否定するJR総連の統制委員会は認められない。JR東海労に加入したCMCの山下さんと共に、関連会社の労働条件改善を求め、広範に組織拡大を目指す。今なお続くウクライナ戦争、イスラエルによるパレスチナへの無差別攻撃などに反対し、情勢不安を煽り、軍事大国を目指す岸田政権を許さず、反戦・平和を守るために闘う。業務改革という効率化・労働強化に反対する。経営破綻と環境破壊へと突き進むリニア建設に反対する。組合員の利益を守るために闘う。JR総連より『7月12日に統制委員会を開催する。弁明の機会を与える』と呼び出しの通知があつた。そもそも、私たちが求めていたのは、統制委員会での弁明の機会ではなく、JR総連、JR東海労本部、新幹線関西地本の三者で議論する場である。問題を解決するためには、三者協議を行うべき。JR総連の姿勢は、問題を解決する気がない。制裁ありきの姿勢だといえる。JR総連近畿地協定期委員会を巡る、組織破壊攻撃と組織破壊者のデッチ上げの発端は、津崎報告書である。

益を守るために、名古屋地本の更なる前進と闘い「創造しよう」と訴えました。JR本体のみならず出向先、関連会社における職場での問題や闘いの報告が出されました。

質疑では、JR本体、弁で「組織拡大を否定するJR総連の統制委員会の撤回を求める!」「『津崎裁判』2名と共に闘う!」を全会一致で採択しました。

特別決議として、「JR東海労への統制委員会の撤回を求める!」「『津崎裁判』2名と共に闘う!」を全会一致で採択しました。

新幹線関西地本は7月7日、第30回定期大会を開催しました。 笹田委員長は、挨拶で「JR総連より『7月12日に統制委員会を開催する。弁明の機会を与える』と呼び出しの通知があつた。そもそも、私たちが求めていたのは、統制委員会での弁明の機会ではなく、JR総連、JR東海労本部、新幹線関西地本の三者で議論する場である。問題を解決するためには、三者協議を行うべき。JR総連の姿勢は、問題を解決する気がない。制裁ありきの姿勢だといえる。JR総連近畿地協定期委員会を巡る、組織破壊攻撃と組織破壊者のデッチ上げの発端は、津崎報告書である。



新幹線関西地本第30回定期大会

質疑では、JR本体、弁で「組織拡大を否定するJR総連の統制委員会の撤回を求める!」「『津崎裁判』2名と共に闘う!」を全会一致で採択しました。

御辯書記長は、総括答弁で「組織拡大を否定するJR総連の統制委員会の撤回を求める!」「『津崎裁判』2名と共に闘う!」を全会一致で採択しました。

新幹線関西地本は7月7日、第30回定期大会を開催しました。 笹田委員長は、挨拶で「JR総連より『7月12日に統制委員会を開催する。弁明の機会を与える』と呼び出しの通知があつた。そもそも、私たちが求めていたのは、統制委員会での弁明の機会ではなく、JR総連、JR東海労本部、新幹線関西地本の三者で議論する場である。問題を解決するためには、三者協議を行うべき。JR総連の姿勢は、問題を解決する気がない。制裁ありきの姿勢だといえる。JR総連近畿地協定期委員会を巡る、組織破壊攻撃と組織破壊者のデッチ上げの発端は、津崎報告書である。

ハラスメント撲滅を強く主張！ 名古屋地本がCMCとの団交開催

名古屋地本は6月17日、セントラルメンテナンス株式会社(CMC)と5回目となる団体交渉を開催しました。

今回の最重要課題は、各事業所で発生しているハラスメント問題で、組合は、「厳しく指導すること」と主張しましたが、会社は「必要な教育・指導は行っている」と、不誠実な対応に終始しました。また、ハラスメントを行った会社は「知らない」と逃げましたが、組合が「しつかりと調査せよ」と迫った結果、「お話を伺った」との回答を引き出しました。

その他職場諸問題の要求に対して、会社は「そういう回答は多かったもの、詰所へのITV設置については「今後の必要

な箇所には設置していく」との回答を引き出し、組合の要求が実現した成果であることを確認しました。

また、JR東海労の組合は、「その様な考えはない」と回答しました。

会社は、リニア中央新幹線・品川→名古屋間の新幹線建設資金管理信託の今後も現場からの要求を出していくので良い職場づくりのために議論していくことを伝え、団体交渉は終了しました。

会社は、リニア中央新幹線建設資金管理信託の今後取り崩し計画を明らかにするとともに、同管

期借入金である中央新幹線建設資金管理信託の今後取り崩し計画が大幅に変わることに断念しました。リニア計画が大幅に変わることから、本部は7月31日、リニア中央新幹線の2027年開業断念に関する申入れを行いました。

以下、項目の概略です。

- ・名古屋→大阪間の建設工事についてのロードマップを明らかにすること。
- ・品川→名古屋間の建設費7兆円は、計画通りなのか明らかにすること。
- ・米国のリニア計画、新幹線計画の進捗状況、この計画への投資額、及び費用対効果について明確にすること。